



烏賊の貝殻

有川知津子

(福岡)

水を押す（水押し）すなはち舳^{みよし}にてゆつくり水を押しひらく舟

いづこより来たりし浮子かゆがみたるガラスの玉のうすみどりいうみぞひのゆらゆら遊具しづかなりうさぎとかもめとともに並びて

工場の通用口から箱が積み上げられて雨降りそめぬ

ヒロシマ以前ナガサキ以前の空のいろ想像すればゆふやみがくる

かたかなでナガサキと書くわが歌ありいまさらさらに気づきてさみし

福島に住むうたびとはやはらかく「ふくしま」と書きそのことを詠む

海底に雨のしづくが溜まりをりどのひと粒もぼうとかがよふ

子規、鷗外、露伴、白秋のんびりと茂吉とほしてのぞく近代

小鳥屋に烏賊のかひがら売られをり（カトルボーン）のポップ貼られて

あさゆふに目にはみれどもふるさとは誰^たれもひろはぬ烏賊のかひがら

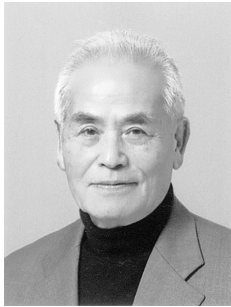
すいれんの、白睡蓮の散るごとし甲烏賊のうちにある白は

ウラボシ科ノキシノブ属ノキシノブ胞子つらねて細葉ただよふ

知らぬひとに煙草をひとつ求めらる筑紫通りの椿のしたで

ドローンのけはひ湛へるはなびらよ角を曲がつてまだついてくる

このごろの私
花粉症で目が痒い。痒みで目が覚めるほどではないが、覚めた瞬間から痒い。窓も開けていないのになぜと思う。とにかく花粉を持ち込まないというのが大事らしく、扉の前で飛び跳ねている。



珊瑚礁の島に

丸山 克介

(鹿児島)

このごろの私
妻が実家の母の介護に島に
帰って五年半。私は、毎日桜
島を眺めてのんびり暮してい
る。掃除、洗濯は適当に、食
事は健康の土台なので、少し
力を入れて作っている。簡単、
簡単。あと十年位は大丈夫だ。

海風にアダンの青き実の揺れて珊瑚礁なほ潮の引きある

潮引きし珊瑚礁に群れアオサ採る女八人マスクの白し

六十年島より出でず「農業は難しい」と言ふ教へ子四人

唄・三線・指笛止まず還暦を祝ふ教へ子皆踊り出す

道の辺の仏桑花つみ髪にさす少女ら下校の楽しみとして

やうやつと教員チームゴールせり島の入江の舟漕ぎ大会

指笛の空へ抜けゆき集落の敬老会の踊り果てたる

がじゆまるの木かげに座り二時間もバス待つ媪海を見てゐる

島中の甘蔗の葉叩き赤土を打ちて台風雨降り続く

客一人乗せある島の小型バス新北風の吹く海辺を走る

砂糖黍の花の揺れある畑隅に獲物を狙ふ樹上の差羽

北風吹きて揺れ収まらぬ十隻の漁船に人無し和泊漁港

吃水を深く沈めて出航す島の牛豚五十頭積みて

教員を目指し島立ちしたる日の揺れ止まざりし二等船室

船酔ひの受験子火山灰を被りつつ「フェリー奄美」のタラップ降りる